

目 次

● <u>経済と経営（経営学入門）</u>	- 1 -
● <u>経済と経営（市場経済と企業）</u>	- 2 -
● <u>経済と経営（ヨーロッパの経済）</u>	- 3 -
● <u>経済と経営（Japan ' s foreign Investments）</u>	- 4 -
● <u>経済と経営（お金大好き人間になろう）</u>	- 5 -
● <u>経済と経営（経済学は人間をどのように扱ったのか）</u>	- 6 -
● <u>経済と経営（現代経済入門）</u>	- 7 -
● <u>経済と経営（市場メカニズムとその修正）</u>	- 8 -

2010年度 前期	曜日・校時 月2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009001 授業科目/(英語名)	●経済と経営(経営学入門) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 104	
対象学生(クラス等)	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 矢島 邦昭 / kyajima@nagasaki-u.ac.jp / 片淵 本館 604 / 095-820-6363 / 随時 または(上記)メールにて連絡してください			
担当教員(オムニバス科目等)	矢島 邦昭		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:現代の代表的企業活動を対象として「経営学のすすめ」の視点から経営行動および研究領域を包括的に示すことにより、経営問題への関心を喚起し、経営学の基礎的知識を獲得することを目的としています。 授業方法(学習指導法):口述、板書および教材提示装置を用いた講義 到達目標:①現代の経済社会の仕組み、②経営学の目指すもの、③経営学のキーとなる概念を理解 することを通して現代企業の多様な見方、考え方を涵養する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第16回目 8月9日 定期試験 第1回 4月5日 何を学ぶか?(オリエンテーション、経済の仕組み) 1年次は大学教育入門 第2回 4月12日 経済の仕組みの中での経営学の位置づけ、経営学? 第3回 4月19日 現代企業と経営(特徴、類型、所有と経営の分離等) 第4回 4月26日 経営思想の変遷(古典的組織論) 第5回 5月10日 経営思想の変遷(新古典、近代組織論) 第6回 5月17日 企業の経営組織とさまざまな組織 第7回 5月24日 経営戦略 第8回 6月7日 マーケティングと競争戦略 第9回 6月14日 財務管理 第10回 6月21日 人(労働)の管理と生産の管理 第11回 6月28日 経営情報システム(情報化の影響) 第12回 7月5日 日本の経営 第13回 7月12日 企業と社会 第14回 7月26日 受託研究からみた企業の問題・課題 第15回 8月2日 全体的まとめ			
キーワード	経営学、永続事業体、リスクへの挑戦、戦略、競争、差別化		
教科書・教材・参考書	教科書 井原久光 『テキスト経営学』 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準等	①期末試験の点数 80点 ②積極的な取り組みなど 20点		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009002 授業科目/(英語名)	●経済と経営(市場経済と企業) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 303	
対象学生(クラス等) 特になし。	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田 高文 / takayo@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館 525 / 0958206348 / 前期は金曜日 9:30~10:30、後期は金曜日 13:30~14:30			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田 高文		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 初歩的な経済学と、市場メカニズムの中で行動する企業の役割について理解する。はじめに、マクロ経済学およびミクロ経済学で最低限必要となる理論や考え方を学習する。これらの内容は、公務員採用試験中級程度である。この学習の後に、企業経営や株式会社制度について学習する。この科目の学習を通じて、経済学の基本的な考え方を身につけ、市場経済において自らがどのように行動すべきかを考えていく。 授業方法(学習指導法): 授業は講義形式である。毎回板書と教員が用意した配布物(プリント)による説明が行われる。受講人数が100名以下であれば、計算等の演習の内容を含む予定である。しかし、受講人数が100名を超えれば通常の講義のみとする。 到達目標: この科目の学習を通じて、経済学の基本的な考え方を身につけ、市場経済において自らがどのように行動すべきかを考えていく。また、新聞やニュース等で報道される現実の経済や企業の実態について、経済学的知識を用いてそれらの内容を理解できるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 4月6日 マクロ経済学(その1) 第2回 4月13日 マクロ経済学(その2) 第3回 4月20日 マクロ経済学(その3) 第4回 4月27日 マクロ経済学(その4) 第5回 5月11日 ミクロ経済学(その1) 第6回 5月18日 ミクロ経済学(その2) 第7回 5月25日 第1回小テスト実施予定日 ミクロ経済学(その3) 第8回 6月1日 ミクロ経済学(その4) 第9回 6月8日 ミクロ経済学(その5) 第10回 6月15日 企業経営(その1) 第11回 6月22日 企業経営(その2) 第12回 6月29日 企業経営(その3) 第13回 7月6日 企業経営(その4) 第14回 7月13日 第2回小テスト実施予定日 企業経営(その5) 第15回 7月20日 授業のまとめ			
キーワード	市場、価格、企業、制度		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。教材は教員作成の配布物(プリント)を使用する。参考書は、 1 西村和雄『まんが DE 入門経済学 第2版』日本評論社、1999年。(コメント: やや易しい) 2 伊藤元重『入門経済学 第2版』日本評論社、2001年。(コメント: 標準的)		
成績評価の方法・基準等	与えられた課題に対する期末報告書の提出を課す。また、講義中に小テストを実施する。配点は、期末報告書30%、小テスト2回60%、その他10%。その他には、講義時の提出物や講義参加状況、全般的な学習態度などを含む。		
受講要件(履修条件)	特になし。ただし、教室の収容人数によっては、受講できない場合がある。上限の目安は中教室で156人、大教室で250人。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	人文・社会科学科目。 経済学の初学者に経済学や経営学のおもしろさと有用性を伝える。		
備考(準備学習等)	特になし。		

2010年度 前期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009004 授業科目/(英語名)	●経済と経営(ヨーロッパの経済) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 成田 真樹子 / makki@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部東南アジア研究所 319号室 / / 毎週水曜日 13時~14時。その他の時間に希望する場合は事前にメールで予約すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい:ヨーロッパに関する基本的知識と問題点の把握を通じて、国際的な問題に関心を持つことを期待する。 授業方法(学習指導法):講義形式で授業を行う。なお、事前に配布した資料を読むなどの予習を必要とする。 到達目標:EUとヨーロッパ諸国における様々な問題に対する理解を深め、自分なりの問題意識を持つことができる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) ヨーロッパの中でも、特にEU加盟国に焦点を当てる。 EUの制度や歴史の解説と主要国の紹介を主な内容とする。 また、最近のニュースにも関心を持ってもらうため、雑誌や新聞記事などを資料として用いる。 16回:8月4日定期試験 第1回 4月14日 ガイダンス 第2回 4月21日 EUとは① 第3回 4月28日 EUとは② 第4回 5月12日 フランス 第5回 5月19日 ドイツ 第6回 5月26日 イギリス 第7回 6月2日 ベネルクス 第8回 6月9日 南欧、アイルランド 第9回 6月16日 北欧 第10回 6月23日 中東欧① 第11回 6月30日 中東欧② 第12回 7月7日 その他のEU加盟国 第13回 7月14日 これからのEU① 第14回 7月21日 これからのEU② 第15回 7月28日 まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書:教科書は使用しない。レジュメと資料を配付する。 参考書:講義中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	講義中の課題50%、期末試験50% ただし、課題で一定の点数に満たなかった場合は期末試験の受験を認めない。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009003 授業科目/(英語名)	●経済と経営 (Japan ' s foreign Investments) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等) All	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー Basu Dipak Rag / Bose66@hotmail.com / 経済学部本館6 2 6 5 研究室 / 0958206334 / 2.30 to 5.30 PM Friday			
担当教員(オムニバス科目等)	Basu Dipak Rag		
授業のねらい/授業方法(学習指導法) / 授業到達目標 ねらい: To help the students to analyse international economic and business policy 授業方法(学習指導法): discussions, essay writing, demonstrations 到達目標:			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) There is no formal structures, but the students are expected to read some books recommended and some articles. They need to write essays and discuss the materials Topics are as follows: 第 1 回 Japanese Management System 第 2 回 " 第 3 回 " 第 4 回 " 第 5 回 Japanese International Investments - causes and effects 第 6 回 " 第 7 回 " 第 8 回 " 第 9 回 Japanese Multinational Companies and their Behaviour 第 10 回 " 第 11 回 " 第 12 回 " 第 13 回 Strategic Management of Japanese companies overseas 第 14 回 " 第 15 回 "			
キーワード	Multinational Company, Japan, Strategy		
教科書・教材・参考書	Books: 1) Japanese Foreign Investment: a historical Perspective, M.E.Sharpe, New York, USA, 2000 2) Japanese Multinational Companies: Management and Investment Strategies, Elsevier, Oxford, 2000. Article: (1) Strategic Human Resources Managements of Japanese Multinationals: A Case Study of Japanese Multinational Companies in the UK, Journal of Management Development, vol. 18, no. 9, 1999, UK		
成績評価の方法・基準等	Final Essay		
受講要件(履修条件)	Knowledge of Economics		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	Writing ability in English is essential		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水1	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009005 授業科目/(英語名)	●経済と経営（お金大好き人間になろう） Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学年	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 深浦 厚之 / afukaura@nagasaki-u.ac.jp / 東南アジア研究所 210号室 / 095-820-6359 / 月曜日午後6時から午後7時			
担当教員(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 人間社会の営みはいかなる仕組みによって支えられているのか、現代社会の仕組みと現代社会が直面している諸問題を正しく認識するための基礎的能力を身につける。そのため、現代経済社会の構造と歴史的推移、また現実に生じている経済・経営事象を理解するための基礎的概念や基礎的理論、また簡単な分析手法を身に付けることによって、広い経済社会の見方や経済学的考え方を習得する。 授業方法(学習指導法): 講義 到達目標: 「私がお金が大好きだ!」と自信を持って言えるような人になること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/6:イントロダクション 第2回 10/13:お金の歴史(1):人間はいつごろからお金を使うようになったのか? 第3回 10/20:お金の歴史(2):人間はどのようなお金を使ってきたのか? 第4回 10/27:お金の歴史(3):これからのお金はどうなるのか? 第5回 11/10:お金の定義(1):社会科学におけるお金とは? 第6回 11/17:お金の定義(2):素材説・形式論説・政策的定義とは? 第7回 11/24:お金はどこにある?:実際にお金はどこにあるのか? 第8回 12/1:お金のイメージ(1):お金は穢れたものか高貴なものか? 第9回 12/8:お金のイメージ(2):なぜトレビの泉にお金を投げ込むのか? 第10回 12/15:ベニスの商人・花咲かじいさんとお金:悪いのは誰? 第11回 12/22:貨幣数量説(1):マクロ経済学の第一歩 第12回 1/12:貨幣数量説(2):マクロ経済学の第一歩 第13回 1/19:銀行とお金:銀行がお金を作り出すとはどういうことか? 第14回 1/26:お金と信用:「お金がない」とはどういうことか? 第15回 2/2:お金は正義:お金は究極の社会正義であるとはどういうことか?			
キーワード	お金 定義 イメージ 正義		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。レジュメを配布する。		
成績評価の方法・基準等	成績評価方法・基準は全学教育履修規定に定める通り		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	全学教育科目・人文社会科学科目・経済と経営に配置された科目 長崎大学の教育上の目的を達成するため、大学教育における基本的教養を会得させ併せて専門の幅広い基盤を理解させる。		
備考(準備学習等)	特になし		

2010年度 後期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009007 授業科目/(英語名)	●経済と経営（経済学は人間をどのように扱ったのか） Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 姫野 順一 / himeno@nagasaki-u.ac.jp / 環420 / 819-2722 / 月曜日15:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	姫野 順一		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: この講義では、前半で18世紀までの経済学の生成(重商主義・重商主義)および「経済学の生誕」(アダム・スミス)と19世紀における経済学の確立期(リカードウ、マルサス、J.S.ミル)において人間がどのように扱われたかを学習する。次に後半ではイギリスをモデルにして20世紀の経済学における人間の取り扱いと福祉について学習考察する。 授業方法(学習指導法): 1,講義を中心とし、経済学の古典における人間の取り上げ方を講述する。 2, 適宜最近の参考文献を紹介し、学習意欲を高める。 3, 時々講義の概要とコメントの提出を課す。 到達目標: 1, 人間と経済の関係について基礎的な知識を身につける。 2, 論理的な思考の習慣を習得する。 3, 人間福祉についての基本的な概念に習熟する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 2/9 第16回 試験 第1回 10/6 第1回 経済学とは 第2回 10/13 第2回 経済学の生成と人間(共同体と商品経済社会) 第3回 10/20 第3回 経済科学の生成(重農学派) 第4回 10/27 第4回 経済政策の登場(重商主義) 第5回 11/10 第5回 経済学の生誕と人間性格: 道徳哲学と経済学 第6回 11/17 第6回 自由貿易と帝国 第7回 11/24 第7回 自由競争のシステムと保護主義 第8回 12/1 第8回 歴史学派と限界効用学派 第9回 12/8 第9回 社会問題と経済学 第10回 12/15 第10回 経済恐慌と経済学 第11回 12/22 第11回 新自由主義の経済学 第12回 1/12 第12回 社会主義とは 第13回 1/19 第13回 進化論と経済学 第14回 1/26 第14回 ケインズ主義と人間 第15回 2/2 第15回 センのケイパビリティの経済学			
キーワード	経済学、人間、歴史、思想、政策		
教科書・教材・参考書	アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の世界(中公新書): 堂目 卓生 J.A.ホブスン『人間福祉の経済学—新自由主義の展開』(昭和堂): 姫野順一		
成績評価の方法・基準等	講義の概要とコメントを書く小レポート(30%)および定期試験(70%)で評価する		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	経済学と人間との関わりを理解することにより、経済学と法学、社会学、哲学との関連が理解される。 自分で本を読む訓練を身につけさせる 問題意識を持つことを動機づける		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009006 授業科目/(英語名)	●経済と経営(現代経済入門) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 平井 康夫 / y-hirai@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館 624号室 / / 原則、水曜日講義後。その他の場合は、メールで事前に問い合わせてください。			
担当教員(オムニバス科目等)	平井 康夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 「景気」「物価」「為替」など現代経済をめぐる主なトピックについて幅広く学ぶことにより、「現代経済」を理解するための視点を養うことをねらいとする。 授業方法(学習指導法): テキスト(下記参照)を用いて、講義形式で行う。必要に応じ、参考資料を配布することもある。 到達目標: 大学生として必要な経済の常識を身につける。具体的には新聞の経済面の記事を読みこなすレベルの基礎知識を身につけること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) テキストに基づき、現代経済をめぐる主なトピックについて講義していく。 最後(定期試験期間)に、期末試験を行う。 第16回 2/9 定期試験 第1回 10/6: イントロダクション…「経済」とは? 第2回 10/13: 経済成長と景気循環 第3回 10/20: 通貨の役割と様々な経済主体 第4回 10/27: 経済の基本的仕組み(その1): 市場経済、独占市場、外部性等 第5回 11/10: 経済の基本的仕組み(その2): 政府の役割、経済指標等 第6回 11/17: 日本の景気、消費、貿易等の現状 第7回 11/24: 日本の財政、社会保障等の現状 第8回 12/1: 物価とインフレ・デフレ 第9回 12/8: 日本銀行と金融政策 第10回 12/15: 為替と日本経済 第11回 12/22: 世界経済の現状(その1): ドルとユーロ、米国経済等 第12回 1/12: 世界経済の現状(その2): EU・中東・アジア経済、ファンド等 第13回 1/19: 日本経済が抱える課題(その1): エネルギー、環境、食料問題等 第14回 1/26: 日本経済が抱える課題(その2): 少子化、格差、年金問題等 第15回 2/2: まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書: 吉野薫 『これだけは知っておきたい「経済」の基本と常識』 フォレスト出版 ※受講者は必ず購入すること。		
成績評価の方法・基準等	期末試験(100%)を基本とするが、出席、小レポート等の課題に対する取組、講義への積極的取組等もプラス点として適宜加味する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金3	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100566009008 授業科目/(英語名)	●経済と経営 (市場メカニズムとその修正) Economics and Business		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 3 2 1	
対象学生(クラス等)		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田 省三 / murata@nagasaki-u.ac.jp / 経済学部本館5階 / 095-820-6340 / 授業終了後20分程度			
担当教員(オムニバス科目等)		村田 省三	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 市場メカニズムの長所と短所を、構造的に理解できるようにすること。 授業方法(学習指導法): 講義(板書による)形式によります。理論的な内容も多いですが、国家予算について、最近の具体的な数値例(データ等)をも利用します。資料は配布します。 到達目標: 市場メカニズムの短所として、資源配分に関するもの、景気安定に関するもの、経済格差に関するものを、代表的な例をあげて、指摘できるようになること。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 10/1:オリエンテーション 第2回 10/8:市場メカニズムとその修正(1) 第3回 10/15:財政の3機能(1) 資源配分、所得再分配、景気安定 第4回 10/22:財政の3機能(2) 資源配分、所得再分配、景気安定 第5回 10/29:これまでのまとめレポート作成・提出 第6回 11/5:日本の経済事情(1) 平成21年度国家予算、国債発行、税制 第7回 11/12:日本の経済事情(2) 平成21年度国家予算、国債発行、税制 第8回 11/26:国と地方の予算配分 第9回 12/3:大きな政府と小さな政府(1) 第10回 12/10:これまでのまとめ、レポート作成・提出 第11回 12/17:自由主義と憲法(判例)(1) 酒税法判例 第12回 12/24:自由主義と憲法(判例)(2) 労働基本権 第13回 1/7:自由主義と憲法(判例)(3) 公衆浴場判例 第14回 1/21:これまでのまとめレポート作成・提出 第15回 1/28:大きな政府と小さな政府			
キーワード	市場の失敗、資源配分、経済格差		
教科書・教材・参考書	財政・税制に関するものなら、難易を問わず、参考になります。ほとんどの人が勉強したことのある本としては、中学校の社会科『公民的分野』の教科書があります。平易ですが、主要な論点はでています。本講義のレベルから再読することをお勧めします。		
成績評価の方法・基準等	3回のレポート(各25%)、出席(25%)。授業中によく質問する学生は加点します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			